

未来志創

よっしゃ！顔晴ろう！

昨日、皆さんに「2学期の目標」を書いてもらいました。一人一人のものを読みながら掲示していると気が付いたことがあります。それはとても単純ですが「変化している」ということです。ほとんどの人が「1学期の目標」とは違う内容を書いていました。目標がより具体的になっている人は、1学期立てた目標を意識していた人です。目標の内容が変わった人は、1学期過ごす間に何かに気付き、気持ちに変化が出てきた人です。「そこまで意識していない」と思う人もいるかもしれませんが、ここから言えるのは無意識の中でも、私たちは日々「変化＝成長」しているということです。いろいろな経験を積み、気付き、学びながら日々成長していきましょう。

世の中は濁点一つで大違い

作家の阿刀田高さんの本の中にこういうことが書いてありました。「世の中の為になる人というのはたくさんいますけど、人間も、社会も、濁ったり、澱んだりするとよくないですね」

あの東北の大津波だって、あれは単なる海水ではありません。海の底から泥を汲みあげてきた濁った海水です。

人間一個人も濁ったり、澱んだりすると世間に悪い影響を与えます。「ためになる人」も、ちょっと濁っただけで「だめになる人」になるんです。

友人にこの話をハガキに書いて出したら、すぐ返事が来ました。そこにこう書いてありました。

「世の中は濁点一つで大違い ためになる人だめになる人」

今の世の中には、濁点の付いた人が多くなったように思います。政治をだめにする人、社会をだめにする人、地球をだめにする人等々。

やはり私たちは濁点のない「ためになる人」になりたいものです。そのために日々勉強です。本当は講演会に来ない人にこういう話をしたいんですけど、そういう人は「日当が出ないと行かない」とか、いろんな理由を付けて勉強しようとしません。

さて、人間の縁というものはとても大切なものです。でも、いい縁を長く続かせるのは難しいです。「あんなに親しかったのに、いつの間にか縁がなくなってしまった」なんてことがよくあります。

その縁をつないでいく方法は**一にも二にも過去への感謝の気持ち**。これしかありません。過去というのは両親から始まって祖父母、先祖、さらには人間関係の縁だけではなく、自分を維持してくれた自然を含めた過去への感謝です。これがないと絶対に縁はつながりません。過去への感謝の気持ちを強く深く持つ人は、必ず未来への責任感を持つことができます。何事に対しても有り難いなあと思える人は、知らず知らずのうちに未来への責任感も持っているものなのです。

最近、過去に感謝する人が少なくなってきました。だから未来への責任感が育たず、「今だけよければいい」「私だけよければいい」という人が増えているのです。過去もなければ未来もないわけですから、あるのは真ん中の「今」だけ。「私」だけという考え方ですね。こういう人がどんどん日本に増えています。

～(中略)～

過去に感謝して、未来に責任感を持つ人たちの良識のある考え方を次の世代につなぎ、そういう人々が増えてほしい、それが私の願いです。 「みやぎき中央新聞」より

私もそうですが、すぐに過去のことをとやかく言いたくなりがちです。しかし、大切なのは過去に対して「感謝」することなのですね。日々成長させてくれた「過去」に感謝するのが第一歩のようです。